

## ⑪ 公 開 特 許 公 報 (A) 平1-136114

⑫ Int.CI.

G 02 C 5/14  
A 61 N 1/42  
G 02 C 11/00

識別記号

厅内整理番号  
7915-2H  
L-7232-4C  
7029-2H

⑬ 公開 平成1年(1989)5月29日

審査請求 有 発明の数 1 (全3頁)

⑭ 発明の名称 メガネ

⑮ 特 願 昭62-294707

⑯ 出 願 昭62(1987)11月21日

⑰ 発明者 中松 義郎 東京都港区南青山5丁目1番10-1105号

⑱ 出願人 中松 義郎 東京都港区南青山5丁目1番10-1105号

## 明 細 本

1. 発明の名称 メガネ

2. 特許請求の範囲

耳の後方にマグネットを設けた事を特徴とするメガネ。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、耳の後方にマグネットを設け、このマグネットの磁によりメガネの重心を耳より後に移し、メガネが鼻部を圧迫して神経にストレスを与えること、お化粧はげをつくることを防ぐのみならず、その重磁としたマグネットにより後頭部血管にフレミング右手の法則により血流を促進せしめ頭脳の働きを良くするメガネに関する発明である。

第1図は本発明実施例を示し、レンズ1をはめたメガネフレーム2に取付けたつる3の先端部に、フェライトを扁平円筒形に成型したもの又は永久磁石4を設けたものであり、つる3と耳5との接点6から前方の重心7までの距離を

$l_1$ 、重心7の重さ $W_1$ 、接点6から後方の重心8までの距離を $l_2$ 、重心8の重さを $W_2$ とすると、

$$W_1 \times l_1 = W_2 \times l_2$$

として前後が等モーメントとされている。

これによりメガネのレンズ間のブリッヂが鼻をおさえて荷重がからず、又鼻から浮くので鼻付近の神経を圧迫したり、頭痛が生じることがなく、又、鼻に跡がついたり、化粧がはがれることがない。

マグネット4は、つるや他のメガネ材料よりも比重が大きいので重磁として小型で有効である。

このようにマグネット4は、鼻にメガネの荷重を欠けた重磁となると共に、その磁力が頭部に作用して血行を促進し、凝りをなくすという二重の効果を本発明は狙ったものである。

第2図は、第1図のつる3のマグネットを設けた端部9を幅広として後頭頸部を囲むようにしゃもし状とし、そのしゃもし状端部9の末端

にマグネット4をはめ込み、このしゃらじ状頭部9はヒンジ10とバネにより矢印11のごとく内方に倒り頭をはさむようにした本発明実施例であり、その端部9が耳の後部で頭に密接することによりメガネを安定して保持すると共に、マグネット4が重錠となり、且つ皮膚に近接して血行促進効果を向上させるものである。

第3図は、第2図のマグネット4の周囲にギザギザの歯12を有するヨーク13をマグネットと底部を連結して設け、マグネット4と歯12を皮膚に押当てる本発明実施例を示し、ヨーク13によりマグネット4と磁気回路を形成して磁場を強くし、さらに歯12により機械的の制限を与える。さらに歯12によりメガネがスリップするのを防止する。第4図はヨークとマグネットを示す。

前記実施例の他の種々の変形はすべて本発明に含まれるものである。

本発明は上記のごときものであるから、メガネの前後の等モーメントとする重錠が小型となり、しかも頭の血行や頭の動きを良くし、又に

メガネの荷重がかからないのでスルースがなく女性の場合は化粧がはげないなど西欧的なメガネを得る事ができる。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明第1実施例の側面図、  
第2図は本発明第2実施例の斜視図、  
第3図は本発明第3実施例の平面図、  
第4図は第3図の一部の斜視図

5 . . . . 耳  
4 . . . . マグネット

出願人 中松 義郎

#### 手続補正書(自己)

昭和62年12月22日

特許行政官 小川邦夫 氏

##### 1. 事件の表示

昭和62年特許願第294707号



##### 2. 発明の名称

メガネ

##### 3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所 〒107

東京都港区南青山5丁目1番10-1105号

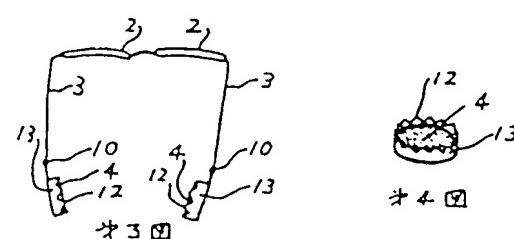
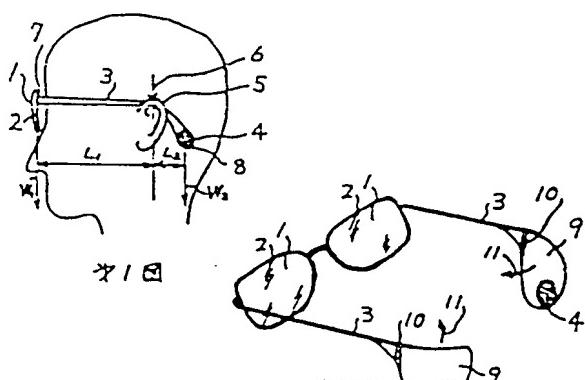
氏名 中松義郎  
E03-585-5605



##### 4. 補正の対象

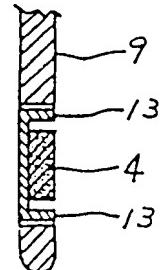
既存の「頭部の荷重を減らし」「頭部の動きを止め」の構造

##### 5. 補正の内容



- (1) 明細者第2頁第16行「なくする」とある  
を「なくし、視神経への血流を増大して視  
力を増強する」と補正する。
- (2) 明細者第3頁第15行「第4図はヨークヒ  
マグネットを示す。」とあるを「第4図本  
よる第5図はヨークヒマグネットとの関係  
を示す。なお、前記ヨークやその他のな  
くても本説明に含まれるものである。」
- (3) 明細者第4頁第8行の次に「第5図は  
本説明第4実施例の横断面図」を加入する。
- (4) 別紙のとおりに図面の第5図を加入する。

以上。



第5図